

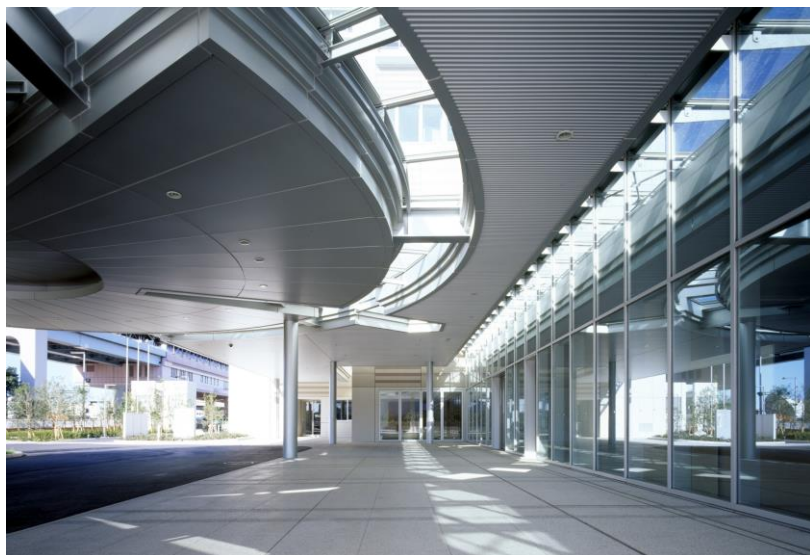
平成 25 年 11 月 1 日 発行

有明ニュース

平成 25 年 11 月号 No.17



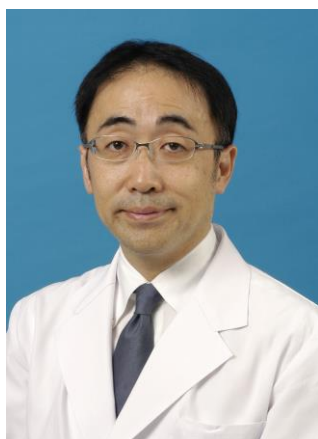
がん研有明病院



〈当院正面玄関〉

消化器外科胃担当部長就任の抱負と今後の戦略

消化器外科 胃担当部長 比企 直樹



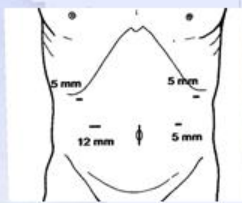
8月1日付にてがん研の胃外科の部長という大役を仰せつかり、心が引き締まる思いであります。

私の抱負ですが、臨床、教育、研究の三本柱を明確することが重要だと思っております。

臨床：現在胃外科では日本一の胃癌症例を集積しておりますが、更なるセンター化で効率を図り、ご紹介頂きました患者さんに、質の高い治療を提供したいと思っております。その為には1) 手術治療の礎となる集学的治療、周術期管理、術後 QOL の向上などを栄養管理などの手法を用いて確立する。2) 腹腔鏡治療をさら

に安全なものとして進化させ適応拡大をはかる。3) LECS（腹腔鏡内視鏡合同胃切除術）のようなオリジナリティーの高いがん研独自の術式を開発しこれを普及してゆく、などの戦略が重要だと思っております。また、日本の胃癌治療は国際的にも認知されており、その中でがん研の胃癌手術の質の高さを国内外にアピールしてゆくことで、国内のみならず海外からの患者さんも多く受け入れて行きたいと考えています。

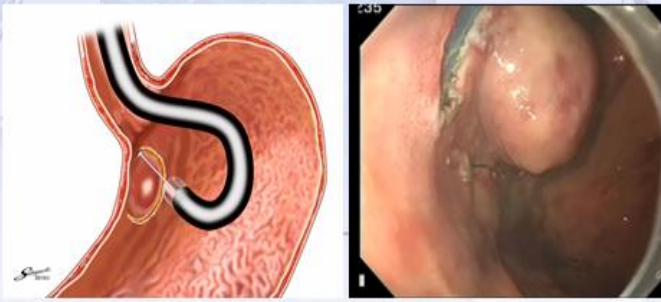
LECS とは



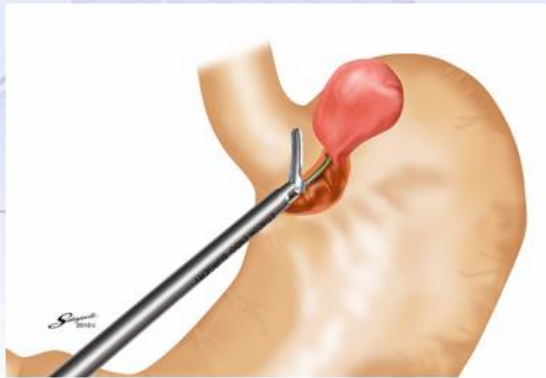
胃部分切除の亜型

胃の内(内視鏡)外(腹腔鏡)から胃を切りとる。

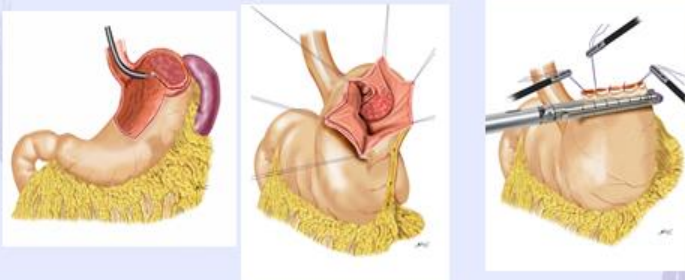
LECS 内視鏡の出番



LECS 腹腔鏡の出番



Successful application of laparoscopic and endoscopic cooperative surgery (LECS) for a lateral spreading mucosal gastric cancer



S Munobe, M Hiki, T Gotoda et al.
Gastric Cancer In press

教育:上記治療が国内および海外に広く受け入れられるためには、臨床現場における徹底した教育の拡充することが重要です。教育の目標は1)手術技術の獲得(内視鏡外科技術認定医資格)、2)論文や学会発表における基礎的な理論構築から論文作成に至るステップを習得することの2点に集中したいと考えております。全国から集まる当院の研修生や見学者は各々の地域に帰られてから指導者として十分な胃癌に関する知識と診断、手術や周術期管理の能力が求められます。

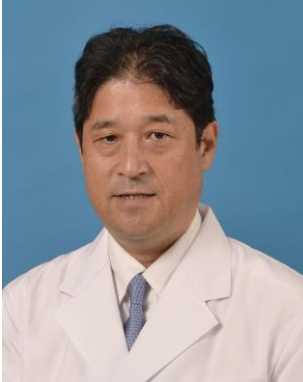
これらを全国のトップレベルの指導者を育てることががん研の責務だと思い、努力したいと思っております。

研究:集学的治療として手術と化学療法の臨床試験を推進する一方、臨床研究だけではなく、研究所や他大学との連携により科学研究も推進してゆく必要があると考えます。たとえば私は以前、癌が見える眼鏡を鏡視下手術に応用するというプロジェクトを企画しました。このプロジェクトは鏡視下手術において、①蛍光色素とレーザー光を用いることで肉眼で見えない深部血管や、リンパ節を透見しながら手術を進めるナビゲーション・サージェリー開発と、②蛍光色素に癌特異的抗体やペプチドをラベリングし癌を光らせるプロジェクトの2本柱となっていました。このような研究を含めて、夢のある研究を推進したいと思っております。

今後ともどうぞよろしくお願いたします。

食道担当部長就任のご挨拶と食道外科の紹介

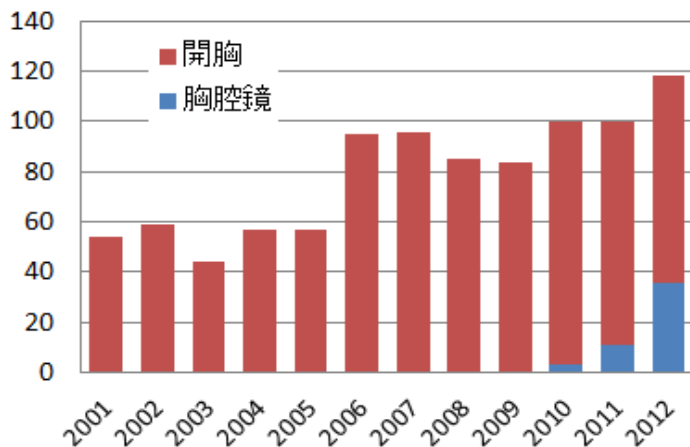
消化器外科食道担当部長 渡邊 雅之



8月1日付で消化器外科の食道担当部長に就任致しました渡邊雅之と申します。まず自己紹介をさせていただきます。私は平成2年に九州大学を卒業後、九州大学第二外科に入局し、食道外科を専門として主に食道癌に対する診療と研究に取り組んで参りました。平成12年から2年間、米国のMDアンダーソンがんセンターに留学した後、九州大学の助手、講師を経て、平成16年から臨床研修病院の先駆けとして知られる麻生飯塚病院に4年間勤務しました。平成20年に熊本大学消化器外科学に講師として赴任し、平成24年4月

図1

食道癌手術症例と胸腔鏡症例数



からは准教授を務めておりました。佐野消化器外科部長のもと、がん研有明病院の食道癌診療のさらなる充実を目指して参りたいと存じます。

さて、がん研有明病院の食道癌手術症例数ですが、図1に示しますとおり増加傾向にあり、2012年には食道切除症例が118例となりました。数多くの貴重な症例をご紹介いただき、この場を借りて御礼申し

上げます。食道癌に対する根治手術は侵襲が大きな手術の代表ですが、近年では患者さんに対する負担を軽減すべく、鏡視下手術を導入しております。2012年には約1/3の症例に対して胸腔鏡下に手術を行い、2013年は半数以上の症例を胸腔鏡下手術の対象としております。また、渡邊赴任後には胸腔鏡のみならず、腹部操作に積極的に腹腔鏡を導入しており、図2に示すような小さな傷での食道切除再建術が可能となりました。また、鏡視下手術においては拡大視効果による確実なリンパ節郭清が可能であり、図3のように、食道癌で転移頻度の高い反回神経周囲のリンパ節郭清も良好な視野のもとに施行できています。

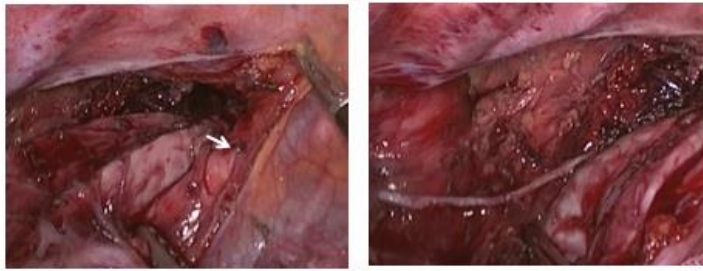
図2

胸腔鏡・腹腔鏡下食道癌手術後の創部



図3

胸腔鏡による反回神経周囲リンパ節郭清



右反回神経

左反回神経

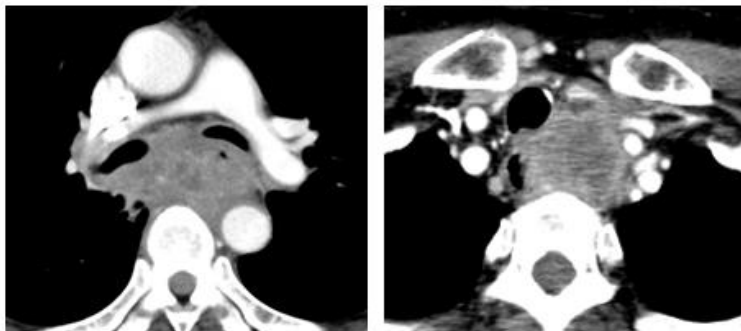
近年、食道癌治療は集学的治療の時代となり、早期がんに対しては内視鏡治療、切除可能な進行癌に対しては術前化学療法後の手術、他臓器浸潤を伴う進行食道癌に対しては化学放射線療法やサルベージ手術といった様々な治療戦略を組み合わせることが重要となってきました。がん研有明病院では消化器外科、消化器内科、放射線科が毎週のカンファレンスを通して症例を共有し、それぞれの患者さんにとって最も望ましい治療法を検討し

ています。食道癌は初診時に根治不能と考えられるような症例であっても、集学的治療で根治に至る症例を経験することがあります。図4左は気管周囲を取り巻くような高度進行癌ですが、化学放射線療法が著効し、治療後6年無再発生存中です。図4右は気管・大血管に浸潤を伴う高度進行癌ですが化学放射線療法後に根治切除が施行でき、2年無再発生存中です。今後も関係各科が協力して集学的治療を推進していきたいと考えています。

一方、食生活の欧米化や肥満の増加に伴い、胃食道逆流症を背景とした食道胃接合部癌が増加傾向にあります。このような症例に対しては胃外科との連携が重要であり、比企胃外科担当部長と協力して、この領域でもわが国をリードしていきたいと考えています。

図4

高度進行食道癌に対する集学的治療



また、食道癌は頭頸部癌や胃癌を重複しやすいことが知られており、術前評価や術後のフォローアップの際には同時性・異時性の重複癌の診断に力を入れています。

一人でも多くの食道癌患者さんの命を救えるように、関係各科と一致協力して食道癌診療を進めて参りたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

平成25年度がん研有明病院紹介セミナー開催のお知らせ（予告）

開催日時：平成26年2月27日（木） 19時～21時

場 所：〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-6 御茶ノ水ソラシティ

「ソラシティカンファレンスセンター ソラシティホール」

※詳細につきましては、後日ご連絡させていただきます。

ブラックジャックセミナー

子供たちを対象とした手術体験風景のご紹介

当院において、子供たちに外科医の仕事に興味をもってもらおうと、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社共催にてブラックジャックセミナーを開催いたしました。

受講内容は、●救急救命体験●手術縫合体験●最新医療機器体験（超音波メス）●内視鏡トレーニング体験●シミュレータ体験●自動吻合器・縫合器体験 です。

対象は小学生・中学生で、約 30 名の参加がありました。

子供たちは当院の医師の指導の下に真剣な表情で実際の手術さながらの体験をしていました。少しでも医療に興味をもって、未来の外科医を目指してもらえたらと思います。その時の様子をご紹介します。



・講堂でセミナーの説明を受け、体験準備



・手術縫合体験風景



・シミュレータ体験風景



・自動吻合、縫合器体験風景

お知らせ

グランドカンファランスのお知らせ

当院では、コメディカルも含めたMDT(multi-disciplinary team)meetingとして、毎月1回(原則第4火曜日 18:00~19:30)グランドカンファランスを行っています。
診断—病理所見—治療—病理所見—結果(予後)といった全体の流れを重視し、各診療科が輪番で症例を選択しています。
また、毎回会終了後にアンケートを実施し、出席者満足度などを調査し、常に改善を図っています。

近隣の医師会および外部施設の方にもご参加いただき、がん研有明病院の診療を第三者から評価してもらい、さらに連携を深める機会とさせていただきたいと考えております。
ぜひご参加ください(事前申込みは必要ありません)。

詳細は、当院ホームページ トップページの「お知らせ」をご覧ください。

医療連携課のご案内

医療連携課では、医療機関の先生方からご紹介をいただいた患者さんの診察・セカンドオピニオンの予約調整を行っております。また、経過報告書の管理、診察に関するご案内等を行っております。お問い合わせの窓口としてご信頼いただけますように、迅速・確実な対応を心がけてまいります。ご紹介は、下記の電話・FAXでお申込みいただけます。(患者さん自身でお電話いただき予約することもできます。)

電話 : 03-3570-0506(医療機関様用)

03-3570-0541(患者様用)

FAX : 03-3570-0254

《編集後記》

連携と辞書を引くと、「同じ目的を持つ者が互いに連絡をとり、協力して物事を行うこと。」と出てきます。当院でも地域の先生と一緒に一人の患者さんを診ていくふたり主治医制を導入して安心感を高めていくこと、また「がんけんキャンサーねっと」というITを利用したカルテ情報の提供を進めております。地域の先生方と意見交換を忌憚なく行い、医療連携の構築をますます図っていきたいと思います。(石井)

公益財団法人 がん研究会有明病院

発行: 医療連携課

〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31

TEL 03-3570-0506 FAX 03-3570-0254 (E-mail): renkei@jfcr.or.jp

ホームページアドレス: <http://www.jfcr.or.jp/hospital/>